

マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 地方自治体職員が、自治大学校で一年間を過ごす研修。研修期間中の概ね半分は自治大学校の実務に従事、半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することによって、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

4月にマネジメントコース研修生として着任してから、早いもので9ヶ月が過ぎました。前半は1ヶ月ほど自治大学校という新しい職場での仕事を体験し、5月から9月半ばまで第1部課程第140期を受講、その後は自治大学校の所属に戻って職員として働いています。

前半の研修では、各分野の第一線で活躍される講師からの講義や、全国から集まった仲間と共に、様々な課題に取り組む演習を通じて、自治体が直面する多くの課題に対応する上で必要な知識と能力の修得に努めました。

後半の実務では主として、来年度に研修生が使用するテキストを作成の作成、過年度に作成したテキストの改訂に携わっています。

テキストは、全国から先進事例を取り上げて、これを参考に研修生が自団体での実施について検討することで、成功の要因や実施に当たっての留意事項などを学ぶものです。執筆時点では、先進自治体から伺った内容をひとしきり文章にまとめ、原稿の素案を作成したところです。

地元自治体を離れて過ごす自治大学校での経験は、他団体の人たちとの活発な議論や、仕事の仕方に触れる機会など、地元では体験できないような刺激的なものばかりで、日々色々なことを学ばせていただいています。

一方で休日については、前半は課題、後半は快適な自室でテレビゲームや映像鑑賞に明け暮れ、外出するのはもっぱら飲みに行く…という自堕落な生活を送っていたところ、先日の健康診断で脂質と腎臓の値が過去にない残念な数値を示していました。

残りわずかとなった立川での生活の中で、ここまで続けてきた引きこもり生活を脱却し、この値を少しでも正常に戻すような生活を心がけるとともに、色々なところを巡って、せっかくの東京暮らしを満喫したいと考えています。いつか自治大学校に来られる皆様は、全国各地から集まる研修生との絆を深めながら、健康に留意しつつ楽しく研修生活を送られることを願っております。

ここで働く機会を与えてくれた地元や、自治大学校の職員の皆様、研修仲間への感謝を噛みしめつつ、来年度の研修生の皆様が実りある研修を受けられるよう、残り3ヶ月尽力したいと思います。(M. Y)

前半の自室から臨む富士山



後半の自室から臨むグラウンド

